令和４年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）
成果報告書

団体名		富士山河口湖音楽祭実行委員会
施設名		河口湖ステラシアター
助成対象活動名		人材養成事業・普及啓発事業
内定額(総額)		6,805 （千円）
	公演事業	0 （千円）
	人材養成事業	2,959 （千円）
	普及啓発事業	3,846 （千円）

（２）令和４年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ	入場者・参加者数	
1	上野耕平等演奏家による 音楽アカデミープログラム	2022 年 7 月 31 日 ～8 月 20 日 河口湖ステラシアター他	上野耕平（サクソフォン） 山梨県中学生特別バンド	目標値	1000 人 ※一般聴講者、出演受講者含む
				実績値	240 名
2	中学生吹奏楽特別バンド、 ＯＢ特別バンド、 音楽活性化育成 プロジェクト	2022 年 8 月 7 日 ～8 月 20 日 河口湖ステラシアター他	上野耕平（サクソフォン） 薬袋貴（指揮、演奏指導） ステラ吹奏楽団	目標値	150 人
				実績値	125 名
3	音楽祭特別合唱団 音楽活性化育成 プロジェクト	2022 年 7 月 31 日 ～8 月 14 日 河口湖ステラシアター 勝山さくらホール　他	渡辺公男（指揮、合唱指導） 音楽祭特別合唱団	目標値	公募合唱 参加者 50 人
				実績値	46 名
4	文化ボランティアの活性化 と若年層ボランティアの 育成プロジェクト	2022 年 8 月 10 日 ～8 月 22 日 河口湖ステラシアター他	音楽大学アートマネージメント専攻学生滞在育成プログラム	目標値	3 人予定 （20 日間、延べ 60 人分）
				実績値	1 名（12 日間、延べ 12 人分）
5	打楽器奏者池上英樹による 音楽祭特別編成・若手 演奏家育成アカデミー プログラム	2022 年 8 月 17 日 ～8 月 20 日 河口湖ステラシアター他	池上英樹（マリンバ、打楽器） マスタークラス	目標値	受講者 10 人
				実績値	受講者 6 人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

（３）令和４年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	演奏家と共に森の中で過ごすバードコンサート ～豊富な自然の中で音楽に親しむ～	2022 年 8 月 14 日	オマタタツロウ（笛奏者）	目標値	50 人目標（大人、子供）
		森の音楽堂 （河口湖ステラシアター前広場）		実績値	25 人
2	演奏家による音楽普及演奏会プロジェクト 街中が音楽いっぱい ～音楽を身近にもっと楽しく～	2022 年 8 月 11 日 ～11 月 23 日	川口成彦（ピアノ） 菊池洋子（ピアノ） 朴葵姫（ギター）　　他	目標値	740 人
		河口湖ステラシアター 河口湖円形ホール　他		実績値	318 人
3	子どものための音楽プロジェクト ～海外演奏家と音楽を通して心の交流～	2022 年 11 月 18 日、19 日	ペトリ・クメラ（ギター）	目標値	520 人
		富士河口湖町小立小学校		実績値	157 人
4	高齢者のための音楽プロジェクト ～海外演奏家と音楽を通して心の交流～	2022 年 11 月 18 日	ペトリ・クメラ（ギター）	目標値	60 人
		はるみさん家		実績値	26 人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

２．自己評価

（１）妥当性

自己評価
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
富士河口湖町は、将来ビジョンとして観光産業に文化芸術を取り入れた町づくりをスローガンに、五感文化構想（視覚、聴覚、味覚、臭覚、触覚）を立ち上げ、ホール、美術館、ハーブ館など文化観光の拠点施設を設置し各施設が町の生産性を高めるけん引役を担い、施策によって町の人口規模も飛躍的に伸びていった町である。その中核となる聴覚分野を担う河口湖ステラシアターは、３０００名収容の野外音楽堂で、平成７年の開館当時は完全な野外音楽堂であったものの、平成１９年に可動屋根を設置し、全天候型野外音楽堂として現在に至る。町直営であることを踏まえ当初から運営に住民の参画を促し、一緒に活動を共にする中で、地域文化ボランティアを中核とした富士山河口湖音楽祭を平成１４年に佐渡裕さん監修によりスタートした。令和４年で音楽祭は２１回目を迎え、住民参加型創造音楽祭という形式の中で培ってきた実行委員であり、ホール開設当初からの文化ボランティアも企画立案の重要なポジションもできており、まさに住民と一緒になったホール運営になっている。当初からのボランティアも９０才近くなるが、今でも現役であり副実行委員長も担い、その活動の後ろ姿が、６０代、７０代の活動における精神的な支柱となっており、やりがいから生きがいになっている。併せて小学高学年と中学生のジュニアボランティアも大人の取り組みを見て一緒に活動をしている。国内各地で高齢化が更に進んでいる中で公共ホールの役割は、益々重要な位置付けになっており、むしろ一緒に活動していく仕組みを強化するべきかと思われる。 令和４年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症もまだ一部影響もあり、富士山河口湖音楽祭の予定していた事業も一部修正し見直しせざろう得ない状況の中で、人材養成事業を実施してきた。当町は観光地でありイベントに対する経済活性化事業の理解度は非常に高い地域ではあるので、今後徐々に回復していきたい。その中で、富士山河口湖音楽祭事業は一部が中止及び延期プログラムもあったが、感染症対策をしながら、中学生を対象とした山梨県吹奏楽特別バンドの編成、ＯＢメンバーによる吹奏楽団の編成は、一部内容を変えて実施できた。新型コロナウイルス感染症の影響をまだ受けつつ、教育的な効果及び社会を元気する効果を上げることができたと思われる。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
町の生産性向上に貢献するホール、文化が経済をリードするまちづくりに貢献する視点を持ちながら、拠点となるホール（河口湖ステラアシアター）が、観光地におけるホールの在り方を実践する場所となり、周辺観光施設、飲食店、ショッピングセンター等各施設に対し、集客に伴う経済的な恩恵を与える施設となっている。併せて、外部からの流入人口を増やすことから広域的な地域の生産性を高め、新たな音楽団体の受け皿となり目的（音楽）を持った滞在の仕組みができる施設であり、町全体の魅力づくりに貢献する一助を担っている。一方で、ホールの中核事業として、良質なクラシック音楽祭があることは、地域の文化芸術性を高める機会を醸成する場となっている。また、ホールの運営側に住民も参加できる仕組みも構築し、住民参加型創造音楽祭の形態が、文化芸術を通じた総合的なまちづくり事業の一助にも繋がっている。 令和４年度には、引き続き新型コロナウイルスの影響がありましたが、少しづつではありますが、地域周辺エリアのイベントがもとに戻ってきている。富士山河口湖音楽祭では、感染症対策を実施しながら、規模を縮小して各プログラムを開催した。感染症の影響で２年以上活動の制限がある中で、プログラムを実施できたことにより、新たにホールや音楽祭を知ってもらう良い機会になったことが、アフターコロナに向けて必ずやつながる活動になったことと思われる。

（２）有効性

自己評価
目標を達成したか。
ホールの活動理念を具体的にするためのホール中核事業として 2002 年から２１回目の開催となる住民参加型創造音楽祭「富士山河口湖音楽祭」をベースに、ホールの役割として、将来的な人材育成のためのプログラムを実施する。音楽家によるアカデミープログラム、合唱と吹奏楽の特別編成プロジェクト、また地元運営文化ボランティアと音楽大学アートマネージメントコースで学ぶ学生との文化ボランティア活性化事業を開催する。人材育成のプログラムは、将来のホール運営事業を支える重要なテーマとなる。ホールのプログラムに関わってもらいながら、ホールと人との結びつき、及びホールを支える人を育んでいる。 音楽祭は８月１１日（木祝）から開始したが、感染症対策などの影響により規模を縮小して実施した。住民の参加枠として、プログラムの運営ボランティアにて関りを持たせながら、１００人以上の参加目標を立て、プログラム縮小したにも関わらず１０６人の参加となった。 子ども達の音楽プロジェクトに関わる支援体制は、地域の芸術文化振興を図る上で、将来を担う子供たちの育成は重要になっており、その中で感染症の影響で制約がある中で、顧問の先生方４人の参加があり、中学生バンド編成ができた。プログラムを支える吹奏楽部顧問や吹奏楽ＯＢの存在はとても大きく、こうした下支えする協力体制が、将来を担う子供たちを大切にする良い機会となった。 音楽プログラムが高齢者の新たな生きがいにする支援体制の強化として、合唱プログラムを開催している。感染症対策を実施しながら、規模を縮小して実施し、前年度より１０人ほど増えたが、６５歳以上２８人の方が集まった。 また、音楽大学等アートマネージメントコースで学ぶ若者と、地元運営文化ボランティアの交流から生まれる支援体制も強化している。ホールを支える地元運営文化ボランティアの方々は、地域住民とのコミュニケーションのつなぎの役割を負っている。住民の理解度を深めるためボランティアコーディネートは重要な役割になっている。支援体制の強化を将来的に行うためにも、若年層ボランティアの育成は急務であり、今後益々人口が減少していく上で、地域の担い手になる仕組みを構築することはホールとしての役目でもある。新型コロナウイルス感染症の中で、人々の活動が制限されている中ではあったが、令和４年度は１人の参加があり、住民文化ボランティアの皆さんとも良き交流の場となり、今後のホールに関わる人材の育成にもつながったと思われる。

（３）効率性

自己評価
アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
富士山河口湖音楽祭は当初の計画では、２０２２年７月からプレ演奏会を計画し、８月１１日（木祝）から２０日（土）に終了する予定で事業計画を立案しました。併せて、令和４年度の特徴として、音楽を長く聞いてもらう視点もあり、富士山河口湖音楽祭秋公演として、１１月まで小規模コンサートを開催し、音楽のまち富士河口湖につながるフレームづくりを行いました。 富士山河口湖音楽祭の事業内容も新型コロナ感染症の影響が残る中で、事業を若干整理しながら町、住民ボランティアの理解と協力により、無事事業を実施することができた。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。
富士山河口湖音楽祭は当初の計画では、２０２２年７月からプレ演奏会を計画し、８月１１日（木祝）から２０日（土）に終了する予定で事業計画を立案した。併せて、令和４年度の特徴として、音楽を長く聞いてもらう視点もあり、富士山河口湖音楽祭秋公演として、１１月まで小規模コンサートを開催し、音楽のまち富士河口湖につながるフレームづくりを行いました。 富士山河口湖音楽祭の事業内容も新型コロナ感染症の影響が残る中で、事業を若干整理しながら町、住民ボランティアの理解と協力により、プログラムが実施できたことは、地域において社会的な意味を持つ位置づけにもなった。

（４）創造性

自己評価
地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。
新型コロナウイルス感染症の影響もありながら、周辺エリアのイベントも少しずつではあるが、感染症対策をしながら事業を行ってきている中で、令和３年度は河口湖ステラシアター、河口湖円形ホール２か所だけのホール限定会場にて富士山河口湖音楽祭の事業を実施しましたが、令和４年度は、近隣の観光施設とも連携しながら、演奏会も広げていくシーズンになりました。河口湖ステラシアターは全天候型可動式屋根を持つ野外音楽堂になっており３密にもならないことから、例年はホール内での対面によるコンサート形態で行っていたが、感染症対策を実施しながら、規模を縮小してプログラムを実施した。８月１１日～２０日までの富士山河口湖音楽祭期間中の間、山梨県内中学生を公募して編成する音楽祭山梨県中学生バンドプロジェクト、また合唱団プロジェクト、演奏会の公開リハーサルの開催などの教育プログラムを実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、事業を一部縮小した部分もありますが、感染症対策をしながら事業を実施する中で、中学生バンド、ＯＢバンド、合唱団の編成など、参加者や参加者のご父兄のなどの理解と協力の上で各事業が実施できただけでもとても意義深い状況だった。 ８月１９日（金）に行ったサクソフォン奏者上野耕平が贈るバンドクリニック＆公開リハーサルでは、総勢３９名の山梨県下の中学生吹奏楽メンバーとサポートメンバー２３名が集まった。例年１００名前後の参加がある中ではあるが、新型コロナ感染症の影響がある子供たちも多い中で、多くの理解に支えられ３９名の参加があったことは、実行委員会はじめ関わるボランティアの皆さんや関係者のモチベーションに大きく寄与した出来事となった。この３９名のメンバーにプラスして、これまで中学生特別バンドに参加した経験のある吹奏楽メンバーからも公募し２３名の参加があった。この２つのグループを混ぜ合わせてバンドを編成し、サクソフォン奏者上野耕平さんの指導により、公開バンドクリニック＆演奏会を行いました。課題曲であるＡ. リード作曲：小組曲や和泉宏隆作曲：宝島を取り上げ、上野さんの指導により音がどんどん変わっていく様子がわかり、各メンバーも刺激ある演奏の機会となったことと思われる。 一方で、富士山河口湖音楽祭の教育プログラムのもう一つの柱である合唱プロジェクトは、全年齢から集まった総勢４６名の合唱メンバーにより、８月２０日（土）のぱんだウインドオーケストラプレ演奏にて合唱を披露することとなった。令和３年度は、富士山河口湖音楽祭２０周年記念事業として、８月２８日（土）佐渡裕さん指揮による第九演奏会のために特別編成をする予定であったが、全国的な感染症拡大によって中止を余儀なくされ、発表の形式を変えて特別合唱団を編成してプログラムを実施した。その流れを踏まえて、少しずつ合唱の流れを復活させていく中で、令和４年度の合唱プログラムは、多くの方が心に残る良い機会だったと思われる。

自己評価
地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。
富士山河口湖音楽祭は平成１４年から開始し、音楽祭の柱として、山梨県下の中学生吹奏楽部から公募した音楽祭中学生特別バンドの動きがある。大きな目的の一つには将来人口の維持の視点を持っている。平成１２年に８９万人の人口をピークに、山梨県は現在約８１万人の人口となる。２０年後には人口が約６６万人にまで減少幅が大きくなる推計が出ており、その中で、地域に少しでも愛着を持ち、地域に戻り生活の拠点を山梨県内に持つ若者の定着度を深めるためには、幼少のころから楽しい思い出をたくさん作り、山梨で将来生活をしようと思う心の基盤を作る思いも持ってこのバンドプロジェクトを開催している。令和４年度は新型コロナ感染症の影響の影響もありましたが、感染症対策を実施しプログラムを実施する。人材養成事業として、アカデミープログラムや、アートマネージメントコース学生と地域文化ボランティアによる交流事業など、実行委員会はじめ、町など関係機関の協力と理解をいただき、実現できたことが非常に意義を感じる機会となった。こうした状況の中で、山梨県下の中学生や合唱メンバーが集まったことは非常に意義があり、プログラムが実施できたことにより、参加した方の感動感は大きく、また支えた側も今後につながる結束感も更に強くなりました。また、サクソフォン奏者上野耕平さんや、ぱんだウインドオーケストラメンバーの皆さんもコンサートもエネルギッシュな演奏であり、富士山の麓において吹奏楽を力を入れて応援してきている経過もあり、すばらしい演奏が今後の活動にも良い影響を及ぼすものと考えられる。音楽祭のプログラムを通じて、地域のみならず、全国に音楽の大切さ、文化プログラムを開催できたことの意義を共有できたことと思われ、こうした動きが令和５年度の富士山河口湖音楽祭の開催や、令和７年度（２０２５年度）のステラシアター３０周年記念事業へとつなげていく希望をもっている。

（５）持続性

自己評価
事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
河口湖ステラシアターは平成７年５月開設以来、住民の参画をホール運営の根幹に据え、各コンサートを住民が鑑賞するだけではなく、来場者をもてなす側にも住民が立つ仕組みを作り運営している。一方で、観光地におけるホールの有り方を実践する場所であり、文化が経済をリードするまちづくりの中心施設でもあったことから、地元主要産業である観光に対して、文化芸術をマッチさせた事業展開を行う中心施設としてホールを活用し、町の生産性向上をけん引する施設としても位置づけている。平成１０年５月にオープン以来参画してきた文化ボランティアを中心メンバーと一緒に発展的に組織化していく中で、ステラシアターサポーターズクラブに名称も新しくして、ホール運営を主体とした文化ボランティア組織としてホールを支え、現在に至っている。 富士山河口湖音楽祭を実施する中で、行政、吹奏楽連盟や合唱連盟といった各種団体、地元オーケストラ団体メンバーや学校吹奏楽部顧問、そして、ホール運営文化ボランティア組織サポーターズクラブと、実質的に取りまとめる役割のホールが一緒になりながら、河口湖ステラシアターをメイン会場として音楽祭を開催している。サポーターズクラブの登録者は例年約４０名が登録をしており、その中の３名が運営だけではなく企画立案も行う音楽祭実行委員会に所属している。音楽祭期間中は、新型コロナウイルス感染症の影響で、参加するプログラムが限られていたが、こうした状況下だからこそ、参加された運営ボンラティアの気持ちは更に強固なものになっている。平成２２年度から昭和音楽大学と連携して事業を取り組む活動を行い、令和４年度で１３年目になる。これまで３０名の学生が文化ボランティアメンバーとして参加し、地元文化ボランティアと一緒に活動する中で、運営業務などを行い、ボランティア交流を行った。令和４年度は１名が参加し、８月１０日（水）から２２日（日）までの１３日間滞在しました。音楽祭の人材養成事業を中心としたプログラムが受け入れ先となり、結果学生と地域文化ボランティアの相互の関りを踏まえて、音楽祭の主要なプログムラムを実施することができました。富士山河口湖音楽祭では、年配の方が多い運営ボランティア組織ステラシアターサポーターズクラブメンバーや、小中学生による地元ジュニアボランティア、アートマネージメント専門大学からの学生文化ボランティアの関わりなどいろいろな所属から成るボランティアの仕組みの中で、プログラムを開催し、運営していることから、富士山河口湖音楽祭の開催を通じた河口湖ステラシアターが複合的な文化交流拠点になっている。関わりの度合いが深く相互にコミュニケーションを図らないと運営に支障を来す原因にもなることから、ホールに対して深く思いを持つ機会にもなっている。こうした地域住民が支えるホールとして、持続可能で地域に支えられるホールを目指して、各種事業を実施している。併せて、富士山河口湖音楽祭を拠点事業として、地域として深く住民とも向き合う機会となっており、文化度が益々深まっているように感じることができる。令和７年度（２０２５年度）には河口湖ステラシアター３０周年の記念の年であり、これまで地域で一体となって開催してきました各演奏会やアウトリーチコンサートが下地となり、大きな礎となる記念事業を予定しており、令和４年度の事業も活動の下地になっている。